

# 季刊 SAPONE 気まぐれ<sup>+</sup>十勝<sup>+</sup>マド<sup>+</sup>秋<sup>+</sup>便り No2

2020年9月号

文責・連絡/十勝障害者サポートネット 小 栗 (0155-25-5987)

こんにちは。気まぐれサポネ便りです。

## みんなでやりたい3面プロジェクト(SUN フロ)説明会とお誘い!

説明会やよもやま話など/9月29日(火)17時30分~保健センター2F・多目的ホール

1面:当事者活動への応援・当事者の声を聴いてみよう……ん〜っ難しそう

2面:市民こころのボランティア講座の開始……心の問題を身近に……何とかしなきゃ

3面:地域スーパーバイス体制の構築……経験ない。でも俺達の問題だから……頑張る

せっかくだから、みんなで色々な事語りませんか

\* 申込書別紙

## 【今号から新連載】

実録<sup>我流</sup>ソーシャルワークNo1  
垣根を越えて P11

もちろんプライバシーに配慮しつつ

精神保健福祉は街創  
り。でもごめいませ  
ん 語れる仲間募集中です。

作業所に2年ほどお手伝いに通ってくれていたボランティアさんがいた。ある日彼女がメンバーの前で『夫の転勤で帯広を去る事になります』と緊張した面持ちで語り、続けて「実は私は難治性の病気と言われていて、毎朝目が醒めるのかさえ不安な日々でした。でも希望を捨てていません。皆さんにはありがとうございます。だから皆さんも……」といいかけた時、普段無口なA子が突然口を開いた。『だから何サ、あんたたちも頑張ってるね。恩着せがましく言わないでよネ』と。

私もヒヤリとしたが、それ以上に作業所に緊張が走った。呆然としているボランティアさんを前に、間を置いてA子が『私達の事は心配しないで。それにあんたには旦那もいるし、大事な子供さんだっている。だから絶対大丈夫。第一私達がいるじゃない。ここでの事を忘れないで、離れても皆で応援する』と間を開けながら静かに続けた。皆の笑顔の中で、何度も何度もうなずきながらボランティアさんの嗚咽が続いた。垣根を超えた共に支え合えるものがあるのだと実感したひと時だった。